



尾久西だより

荒川区立尾久西小学校

発行日 令和2年2月28日

発行者 校長 芝田 智昭

No. 346 3月号

巣立ちのとき

3月は、巣立ちのときです。元の意味は、親鳥から食べ物をもらい庇護されてきたひなが、立派に成長し巣から飛び立っていく、というものでしょう。転じて、それまで培った力をもとに、新たな世界に旅立つ「卒業」を意味するようになったのかもしれませんが。

私が6年生と初めて会ったのは今年度の4月、春休み中の入学式準備のときでした。一生懸命に体育館の掃除をする子、1年生の教室を丁寧に飾り付けする子、重い荷物を黙々と運ぶ子、すでに最上級生としての自覚と責任が表われているようでした。この子たちが6年生なら尾久西小は大丈夫だ、と安心したのを思い出します。

あれから1年、様々な行事で見せてくれたひたむきな姿、委員会やクラブでのリーダーシップ、全員が一体となった歌声と迫力ある演奏など、6年生が率先して表現してくれた前向きな姿勢は、下級生のあこがれとなり目標となっています。こうしたことが今の尾久西小をつくっていると私は考えています。

先週の6年生を送る会の中で、校旗引継ぎ式がありました。6年生が毎日掲揚していた校旗を5年生に引き継ぐのです。4月から尾久西小の大黒柱となる5年生は、最上級生としての思いがさらに強くなったように見えました。困難なことでもあきらめずに努力を続ける校風の継承は、在校生に託されました。

ある学校の6年生の授業を参観していたら、こんなフレーズに目が留まりました。

“令和最初の卒業生、平成最後の卒業生、始まりも終わりも自分たちがつくる。”

本校の6年生は、間違いなく、始まりから終わりまで最上級生としての責任を自覚し、実際の行動で尾久西小を引っ張ってくれました。そんな自慢の6年生を送り出すのは寂しい気持ちもありますが、制約がある中、思い出に残る卒業式となるよう工夫してまいります。

学校評価

年をまたいでご依頼した学校評価について、ご協力ありがとうございました。学校評価は、今年度の教育活動を定められた視点から振り返っていただき、一定の尺度に従って評価を頂戴するものです。結果を集約・分析し、その概要を裏面に掲載しましたのでご覧ください。

新型コロナウイルス対応

国の要請を受けた教育委員会からの指示に基づき、臨時休業及び学校行事等の中止・規模縮小等の措置を講じることとなりました。

別途配布の通知でご確認の上、ご理解・ご協力をお願いいたします。